

単元案の概要(韓国語)

単元名:街角外国語ワード・ウォッチング:私たちの街などにある身近な表記は韓国語母語話者にとって優しいか					
科目名	韓国語	作成日	2015年9月13日	作成者	阪堂千津子
学年/年次	2年生16名、1年生5名(能力差のあるクラス)	クラス人数	21人	使用教材	「もっとチャレンジ!韓国語」(参考)
話題分野	地域社会と世界	言語レベル	2~3	必要時間数	授業内約9時間+授業外(調査、成果物の作成)
単元目標					
<p>「私たちの街などにある身近な表記は韓国語母語話者にとって優しいか」を検証することを目的に、学習者がグループで、大学構内、地域の交通機関、家電量販店、飲食店など身近なところに韓国語があるかどうかを調査し、ネイティブスピーカー(校内の韓国人留学生や韓国人講師)にその意味、使われ方が正しいか、分かりやすいかなどを調査、検証したうえで、日韓対訳の成果物(スライド)をグループのメンバーで協働して製作する。その中で表記を通して他言語や社会との主体的な関わり方を考え、積極的に外部にはたらきかける基盤を作る。</p>					
(言語)コミュニケーション能力指標					
<p>【交通と旅行】</p> <p>1-d. 施設の案内表示や街中の標識を見て理解できる。</p> <p>2-k. 車内や駅などを書いてある、交通ルールやマナー表示文を見て理解できる。</p> <p>3-i. 列車やバス・駅・飛行機・空港内での通常のアナウンスを聞き取ることができる。</p> <p>【人とのつきあい】</p> <p>3-e. 日本の家庭や学校(当プロジェクトでは公共施設)で守らなければいけないマナーやルールについて口頭でまたは書いて説明できる。</p> <p>【地域社会と世界】</p> <p>2-a. 自分たちの住んでいる町や都市について紹介する簡単な資料を作ることができる。</p> <p>2-b. 自分の住んでいる町や都市に対して思っていることを話すことができる。</p> <p>【ことば】</p> <p>3-f. 日本語と学んでいる言語を比べて、類似点や相違点を、簡単な例を挙げて文章で説明できる。</p> <p>【オリジナル指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ある外国語表記が正しいか、分かりやすいかを目標言語話者に確認できる。 ・ある外国語表記についての問題点や改善点を成果物としてスライドにまとめて、口頭や文章で説明できる。(レベル3) 					
学習活動の流れ					
語彙・表現習得活動			学習シナリオ		
既習の文法、文型を主に使用したため、必要に応じて既習項目を復習。自己紹介ビデオには、並行して行う通常授業で習得した「원이다 ~するほうです」「았/었으면 좋겠다~したらいい			<p><場面状況> 武蔵大学人文学部日本・東アジア文化学科の韓国語選択クラス(2年生と1年生の混合クラス・21名)では、江古田や池袋など自分たちの住む地域を中心に、身近にある大学や商業施設、飲食店にある韓国語表記を調査し、それらが正しいか、韓国語ネイティブの人びとにとって分かりやすいかを検証することにした。</p>		

<p>なあとします」をなるべく使用するよう に指示。・発表に必要な語彙はその都 度、補充(グループによって必要な語 彙は異なるため、個別対応)。</p>	<p><活動の流れ> ①プロジェクトのねらいと発表対象者(校内の他学年の韓国語履修者や他大学の他言語の学生)を説明。「表記」に関するテーマを効果的で分かり易く、かつ「大学生らしい」「高度な思考力」を要するプレゼンとは何かをブレインストーミング。昨年度の校内イベントでの発表動画を鑑賞、評価方法を紹介。その後、グループ分け(3グループ) ②北九州市立大学の中国語クラスと横浜市立大学のドイツ語との連携プロジェクトのため、全員の自己紹介のビデオを作成。ウェブ上(グループウェア)で公開。③各グループで主題を決定。(大学構内の外国語表記、公共施設の外国語案内表示と音声、韓国料理に関する表記、の3テーマ)。写真撮影・音声収録など資料収集方法とスケジュールについて話し合い。④成果発表の評価基準表をクラス全員で話し合いの上、作成。進行予定表配付。韓国語母語話者(留学生、講師)へ表記についてのインタビュー実施(Email、対面)。韓国人留学生には、SNSを使って韓国語でインタビューも行う。⑤両大学から送られてきた自己紹介(スライド)を鑑賞。グループごとに調査続行。⑥集めた資料(韓国語表記の看板、メニュー、店内の音声など)を元に発表の構成を話し合い、役割分担して原稿作成。⑦原稿を元に、日韓まじりの成果物(スライド)を完成させる。⑧校内韓国語イベントでグループごとに日本語と韓国語まじりで発表(司会進行も)。来場者にはクラスで作った評価基準表に評価などを記入し、提出してもらう。⑨校内イベントの評価シートを参考に成果物(スライド)を修正したうえ、クラス内で韓国語だけによる発表を行う。(評価基準表による相互評価を実施)。⑩ウェブ上(グループウェア)に成果物をアップ。⑪アップされた他大学の成果物の鑑賞会を実施。感想をウェブ(グループウェア)で送り、交流を図る。</p>
--	---

評価活動

<p style="text-align: center;">形成的評価</p>	<p style="text-align: center;">総括的評価</p>
<p>・毎回、授業の最初に各グループの報告者を決め、授業終了時にグループの作業進捗と次回の予定をまとめて講師に報告。協力しながら与えられた課題を時間内にこなしているかチェック。</p>	<p>プロジェクトワークでの成果物を、事前に話し合いにより作成した評価基準表により、①イベント来場者による評価と②クラス内での成果物報告会での相互評価で、評価する。</p> <p>評価基準表:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1)～5)を1～5点の五段階で評価 1)発表内容(わかりやすいか)、2)内容の完成度(資料が充実しているか)、3)興味・関心度(発表の内容はおもしろく、興味や関心が沸いたか)4)プレゼン力(発表は聞き取りやすいか)、5)チームワーク(まじめ・熱心さが伝わるか) ・自由記述(ひとことコメント) <p>各グループの良かった点・次回へのくふう、について</p> <p>この他、単元の成績には関係しないが、同じ評価基準表を使用して上の5項目を自己評価した。また、作業を通じて得られたこと、授業の進め方や準備について気が付いたことや感想・意見などについてもコメントを書いてもらった。</p>

3×3+3 分析表（韓国語）

	言語領域	文化領域	グローバル社会領域
わかる	<ul style="list-style-type: none"> 街にある韓国語表記(音声も含む)について知り、その意味を理解する。 街の韓国語表記(綴りや表現)の誤りに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> 街でよく見る韓国語を通じて韓国の文化と習慣について共通点や相違点を理解する。 食堂のメニューなどを通して日本語に韓国語が浸透していることを理解し、その誤りや関係性を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 単なる直訳の表記ではなく、外国人の視点に立った外国語表記が必要であることを理解する。
できる	<ul style="list-style-type: none"> 韓国語を使って、大学や街・公共施設などで使われている韓国語表記についての情報を伝えることができる。 街の韓国語の表記と日本語表記を比較して、その共通性や相違性を分析することができる。 韓国語と日本語で成果物を作成することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本と韓国の文化や習慣の違いを考慮しながら、わかりやすいあるいは正しい韓国語表記について、改善点などを考えたり提言したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 街の韓国語表記についての問題を解決するために、グループで調査を進め、韓国語母語話者に確認するなどして分析を行い、調査結果に基づいて、問題点及び自分たちの考えを、聞き手の韓国語の理解度や環境に合わせて表明することができる(高度思考) SNS(サイボウズなど)を活用して、情報交換を行うことができる(ICT活用) グループで分担したり協力したりしながら成果物(スライド)にまとめ、発表することができる。(協働学習)
つながる	<ul style="list-style-type: none"> 韓国語を使って韓国人留学生と SNS や Email などで表記についての情報交換を行うことができる。 韓国語を理解できない聴衆も意識しながら、韓国語を使って分かりやすく効果的に調べたことを発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 韓国人留学生や韓国人講師に、街や大学で表記に関して困ったことについてインタビューしたり、韓国語での望ましい表記について情報交換することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 調査収集した情報を韓国語・日本語併記した成果物にまとめ、校内の他学年(おもに韓国語履修者)や、他大学の他言語履修の学生に向けて、効果的にわかりやすく発信することができる。
三連携	<p>【学習者】自分のごく身近にある外国語表記(大学、韓国食堂、家電量販店) 【教室外】ネイティブスピーカー(留学生と講師)、他大学他言語クラスの学生、 【他教科】日朝交流史、日本の食文化史</p>		

単元案の概要(中国語)

単元名:街角外国語ワード・ウォッチング:我々の住む町は中国語圏から来る観光客に優しい街かを検証しよう					
科目名	中国語	作成日	2015年9月13日	作成者	西香織
学年/年次	1年	クラス人数	20人	使用教材	なし
話題分野	地域社会と世界	言語レベル	2	必要時間数	授業内約6時間+授業外(調査、成果物の作成)
単元目標					
<p>「我々の住む街は中国語圏観光客(一時滞在者)に優しく親切な街か?」を検証することを目的に、学習者がグループで、地域の交通機関、観光スポット、商業施設、飲食店など自分の身近なところに中国語があるかどうかを調査し、中国在住の中国人大学生にその意味、使われ方が正しいか、分かりやすいかなどを中国語で調査、検証したうえで、日中対訳の成果物(スライド)をグループのメンバーで協働して制作する。その中で学習者が主体的に自他の言語・文化・グローバル社会の各領域において気づきを得、そこから積極的に外部にはたらきかける基盤を作る。</p>					
コミュニケーション能力指標					
<p>【交通と旅行】</p> <p>1-d. 施設の案内表示や街中の標識を見て理解できる。</p> <p>2-k. 車内や駅などを書いてある、交通ルールやマナー表示文を見て理解できる。</p> <p>【人とのつきあい】</p> <p>2-h. 定型表現を使った、簡単な手紙やメールを、書いたり読んだりできる。</p> <p>【地域社会と世界】</p> <p>1-e. 自分の住んでいる町や都市の、有名な場所や食べものなどを言うことができる。</p> <p>2-a. 自分たちの住んでいる町や都市について紹介する簡単な資料を作ることができる。</p> <p>2-b. 自分の住んでいる町や都市に対して思っていることを話すことができる。</p> <p>2-d. 日本や相手の国の有名人や建築物について、口頭または文章で紹介できる。</p> <p>【オリジナル指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ある外国語表記が正しいか、分かりやすいかを目標言語話者に確認できる。 ある外国語表記についての問題点や改善点を成果物としてスライドにまとめることができる。 					
学習活動の流れ					
語彙・表現習得活動			学習シナリオ		
<p>既習の文法、句型を主に使用したため、必要に応じて既習項目を復習。</p> <p>中国の大学生にBBSなどで確認する前に必要な語彙をその都度、補充(グループによって必要な語彙は異なるため、個別対応)。</p>			<p><場面状況></p> <p>北九州市立大学中国学科1年2組(20名)では、福岡県や北九州市など自分たちの住む地域を中心に、自分たちの身近にある交通機関や商業施設、観光スポット、飲食店にある中国語表記を探し、それらが正しいか、日本に初めて来る中国語圏の人びとにとって分かりやすいかを検証することにした。</p>		

	<p><活動の流れ></p> <p>①プロジェクトの説明をし、各自で街で中国語表記の写真撮影など資料収集をおこなう。グループ分け(5グループ)。</p> <p>②成果発表の評価基準表、進行予定表の配付、WEB等公開承諾書の記入。</p> <p>③武蔵大学の韓国語クラスと横浜市立大学のドイツ語との連携プロジェクトのため、ウェブ上(グループウェア)で互いの学習言語と日本語で自己紹介(グループごとに自己紹介スライドの作成)。</p> <p>④テーマを決定。グループごとにさらなる調査を行う。</p> <p>⑤集まった資料(中国語表記の写真など)を元に、中国語母語話者への質問項目を選定し、中国語表記のチェック依頼。BBS、Eメール等を利用して、全て中国語で、中国語母語話者(中国T大学3年生26名)に質問、確認。</p> <p>⑥日中対訳の成果物(スライド)の作成。</p> <p>⑦クラス(授業)内でグループごとに主に日本語でプロジェクトの報告、評価・感想。</p> <p>⑧成果物(スライド)の修正、提出。</p> <p>⑨ウェブ上(グループウェア)に成果物をアップし、他言語クラスと共有して交流を図る。</p>
<p>評価活動</p>	
<p>形成的評価</p>	<p>総括的評価</p>
	<p>プロジェクト報告会での成果物(スライド)及び発表を教員と学生で評価</p> <p>自己(自己グループ)評価:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1)～6)を1～5点の五段階で評価 1)発表態度(声・表情など)、2)スライドの内容の分かりやすさ、3)スライドの見やすさ、工夫、4)大学生らしいテーマ・内容、5)作業過程でのグループへの貢献、6)チームワーク ・自由記述 自分のグループの良かった点・反省点、今回の活動を通じてどのような気づきが得られたか等 <p>他者(他グループ)評価:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1)～4)を1～5点の五段階で評価 1)発表態度(声・表情・チームワークなど)、2)スライドの内容の分かりやすさ、3)スライドの見やすさ、工夫、4)大学生らしいテーマ・内容 ・自由記述 一言書き添えておきたい、この発表の良かった点(感想)、こうすればもっとよくなると思った点等

3×3+3 分析表（中国語）

	言語領域	文化領域	グローバル社会領域
わかる	<ul style="list-style-type: none"> 街にある中国語表記について知り、その意味を理解する。 簡体字・繁体字の違いを理解する。 街の中国語表記の誤りに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> 街のトイレなどの中国語表記を通して中国文化圏の文字や習慣について理解し、その違いや関係性に気づいたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本語がわからない人のために、日本の交通機関、飲食店、観光地、商業施設などに外国語表記が必要であること、ただ日本語を直訳するだけでは不十分なこと、文字情報の他にも必要なものがあることを理解する。
できる	<ul style="list-style-type: none"> 中国語を使って、交通機関の中国語表記など身近な事柄について、他者に情報を伝えたり、理解したりできる。 街の中国語表記と日本語表記を比較して、その共通性や相違性などを分析することができる。 中国語と日本語で成果物を作成することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本と中国語文化圏の文化や習慣の違いから、街の中国語表記について改善点などを考えたり提言したりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 街の中国語表記についての問題を解決するために、グループで調査を進め、中国語母語話者に確認するなどして分析を行い、調査結果に基づいて、問題点及び自分たちの考えを表明することができる（高度思考）。 BBS、Eメールを活用して情報収集を行うことができる（ICT活用）。 グループで分担したり協力したりしながら成果物（スライド）をまとめ、発表することができる。
つながる	<ul style="list-style-type: none"> 中国語を使って中国在住の中国人大学生とBBSやEメールなどで主体的に対話を行い、街の中国語表記が正しいか、分かりやすいかなどの情報交換を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> BBS やEメールを通じて中国在住の大学生と、文化や習慣の違いから日本に来て困ったことなどについて情報交換を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> BBS、Eメールを活用して中国語で収集した情報を日中対訳の成果物にまとめ、中国語や他の言語クラスなどに向けて発信できる。
三連携	<p>【学習者】自分のごく身近にある外国語表記</p> <p>【教室外】中国在住の中国人大学生（中国語母語話者）、他大学他言語クラスの学生、地域の人々（駅員、観光地の係員、飲食店店長など）</p> <p>【他教科】既習の中国語の語彙や文法、地域社会</p>		

単元案の概要(ドイツ語)

単元名:街角外国語ワード・ウォッチング:我々の住む町はドイツ語圏から来る観光客に優しい街かを検証しよう					
科目名	ドイツ語	作成日	2015年9月13日	作成者	池谷尚美
学年/年次	2年	クラス人数	1人	使用教材	なし
話題分野	地域社会と世界	言語レベル	2	必要時間数	授業内約2時間(授業時間のうち15~20分を何回か割り当てた)+授業外(調査、成果物の作成)
単元目標					
自分が住む街では、どのような言語を街中で見ることができるのかを調査し、その中でドイツ語を見る頻度が多い分野や、ドイツ語を使用することの効果やドイツ語のイメージなどを中心に考察する。					
コミュニケーション能力指標					
<p>【人とのつきあい】</p> <p>2-h. 定型表現を使った、簡単な手紙やメールを、書いたり読んだりできる。</p> <p>【地域社会と世界】</p> <p>2-b. 自分の住んでいる町や都市に対して思っていることを話すことができる。</p> <p>【オリジナル指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ある外国語表記が正しいか、分かりやすいかを目標言語話者に確認できる。 ・ある外国語表記についての問題点や改善点を成果物としてスライドにまとめることができる。 					
学習活動の流れ					
語彙・表現習得活動			学習シナリオ		
既習の文法、文型を主に使用したため、必要に応じて既習項目を復習。			<p><場面状況></p> <p>Y大学ドイツ語クラスでは、自分達が住んでいる街で見かけるドイツ語を探すことにした。そのドイツ語が正しいかどうか、どのような分野にドイツ語が多く使われているか、ドイツ語が消費者に与える効果なども検証する。</p> <p><活動の流れ></p> <ol style="list-style-type: none"> ①プロジェクトの説明をし、ドイツ語が付いた商品の写真撮影など資料収集を行う。 ②成果発表の評価基準、進行予定表などの配布 ③他言語他大学クラスに向け、ウェブ上(グループウェア)で互いの学習言語と日本語で自己紹介(グループごとに自己紹介スライドの作成)。 ④収集した資料を基に、日本語とドイツ語で内容をまとめる。 		

	<p>⑤ドイツ語母語話者に連絡を取り、スライドの内容をチェックしてもらう。 並びに、発音練習を行う。</p> <p>⑥日本語・ドイツ語の音声付成果物(スライド)の作成。</p> <p>⑦クラス(授業)内でプロジェクトの報告、評価・感想。</p> <p>⑧成果物(スライド)の修正、提出。</p> <p>⑨ウェブ上(グループウェア)に成果物をアップし、他言語クラスと共有して交流を図る。</p>
<p>評価活動</p>	
<p>形成的評価</p>	<p>総括的評価</p>
	<p>成果物(スライド)を自己評価</p> <p>自己評価:</p> <p>1)発表内容(聴き手に興味を持たせる内容か、ドイツ語を知らない人への配慮があるか)、2)ドイツ語(簡潔で的確な表現か)、3)音声(一定のテンポを持ち、明瞭で聞きやすいかどうか)、4)高度思考(日独関係について、何等かの考察を含んでいるか)、5)自由記述(成果物作成の良かった点・反省点)</p>

3×3+3 分析表（ドイツ語）

	言語領域	文化領域	グローバル社会領域
わかる	<ul style="list-style-type: none"> 街にあるドイツ語について知り、その意味を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 街でよく見るドイツ語を通じて、どのような分野においてドイツ語が多く使われているのかを分析することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ドイツ語を含むヨーロッパの言語が日本の街中で使われている現象を理解し、どの言語が多く使われているかを調査することができる。
できる	<ul style="list-style-type: none"> 街で見つけたドイツ語について、その意味や考察を加えた成果物を日本語・ドイツ語両言語で作成することができる。 ドイツ語を知らない聴き手を意識して、ドイツ語の意味や調べたことを分かりやすく効果的に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の会社がドイツ語を使っている背景を分析し、日本人が抱くドイツのイメージについて考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本に輸入されている商品のドイツ語を見て、輸入品を通じた日独交流を考察することができる（高度思考） 音声付パワーポイントを作成することができる。（ICT活用）
つながる	<ul style="list-style-type: none"> ドイツ語を使って、ネイティブスピーカーにドイツ語の意味について伝えたり、自分の考察を伝えてコメントをもらうことができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 調査収集した情報をドイツ語・日本語併記した音声付成果物にまとめ、他クラスにむけて発信することができる。
三連携	<p>【学習者】自分のごく身近にある外国語表記</p> <p>【教室外】ネイティブスピーカー（留学生）、他大学他言語クラスの学生</p> <p>【他教科】日独交流の歴史</p>		